

2008年、ユースサービス協会 KES認定獲得!

KESって皆さんご存じですか？京都発の環境認証制度として、世界的にも有名です。これが作られた契機は、なんと言ってもCOP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）。この、環境（温暖化）問題への地球規模での取り組みを考える国際会議を機に、市民も行政も企業も含めた温暖化対策が話し合われ、良い取り組みと成果を出した組織を認証する仕組みとしてKESが誕生しました。協会もさまざまな工夫をして、組織全体で環境負荷の低い運営を考え、認証を受けることが出来ました。（認証継続中）

2009年、 リーマン・ショック 内定取り消し

アメリカの投資銀行「リーマン・ブラザーズ・ホールディングス」の経営破綻による世界的金融危機（2008年9月15日）は、日本にも大きな影響を与えました。短い間に急激に失業率は上昇し3%台だった失業率が2009年7月には5.6%「統計開始以来の高水準」。2009年の就活では、内定を一旦出したが後で取り消す「内定取り消し」が多発しました（厚労省発表：400社、1,800人以上）。会社の既存の社員を守るためにいえ、これから社会人になるという手前で裏切られ、将来への希望を奪い、多くの若者の心を深く傷つけるできごとが起きたのです。

2010年 京都市子ども・若者総合相談窓口、 支援室開設

30代までの若者やそのご家族の様々なしあわせについて一緒に考え相談にのったり、必要な情報や機関を紹介する窓口です。窓口と連携している「支援室」の支援コーディネーターは、しあわせが重なり動きにくく感じられる利用者と一緒に動いたり、環境を整えたりサポートをします。また、NPOほか若者をサポートするたくさんの機関が参加する「京都市子ども・若者支援地域協議会」と連携して、ひとりひとりの状況に応じたサポートを考え取り組んでいます。



京都市には7つの青少年活動センターがあります

京都市の青少年活動センターは、元々は「青年の家」という名前の、働く若者の余暇活動の施設でした。それが、2000年になって「高校生や大学生も使える施設にしよう！」という大変更があって、名称も青少年活動センターと変わったのです。

たった7カ所、かもしれないけれど、中高生から30歳までと幅広い若者の活動拠点を持っている都市は、多くありません。若者が家や学校、仕事場とは別の場所で、楽しんだり表現したり、社会参加を通して学んだりする機会づくり・場づくりをするのが、センターの役割。あまり派手じゃないけれど、若者が生きやすいまちづくりに貢献しています！

2006年

京都若者サポートステーション開設

若者サポートステーション（サポステ）は、学校を出た後で働くことに一歩踏み出したい若者をサポートする機関です。厚労省がこの事業を始める時、「協会でやってくれないか？」とのお話を京都でも開設することになりました。今では年間3,000人を超える若者の利用があり、個別面談から始まってグループ体験



仕事体験の様子

や仕事体験といったプログラムを手がかりにしながら、自らの課題に向き合ったり、社会との折り合いを考えたりしつつ、一歩を踏み出しています。昨年からは南丹エリアでもサテライトを設置して活動範囲を広げています。

京都市民の5人に1人が若者

「京都は若者に寛容な街」と言います。「ほんまにそうなん？」と思う人もいるかもしれません、市民の5人に1人（正確には2017年統計で20.2%）が若者（13歳から30歳）で、約30万人。とても多くの若者が暮らす、京都の今とこれからを支えていることは確かです。もっともっと、若者が暮らしやすい・生きやすい京都を作っていくなら良いなと思います。



特集

若者×30



協会をよく知る2人組
世界大会1位
姉妹タップデュオ 華～Puspa～



姉・淨華が中学校の3年生を送る会の練習で友達と利用したのがセンターとの出会いでした。妹・優華の中学入学を機に2人で利用し始め、それ以来10年以上お世話になっています。普段のスキルアップはもちろん、生徒さんのレッスンも。また国際大会や公演の前など、大事な舞台の前は「開館とともに来て、閉館とともに帰る」なんてこともあります（笑）

センターは、今年で16周年になる私たちにとって、もう一つの大切な居場所です。センターがなければ、今の私たちはありません。活動を受け入れ応援してくれる場所があることに、心から感謝しています。これからもよろしくお願いします！

4代目理事長 安保千秋



私は、弁護士をしており、子どもや若者の人権擁護や成長発達への支援活動をしています。理事の依頼があった際、はじめて、青少年活動センターの様々な活動が、若者が自主的な活動を通して成長への経験の機会を持つるように支援するというユースサービスの理念に基づいていることを知り、新鮮な感銘を受け、今もその感銘は私の活動の源になっています。若者を取り巻く環境等の変化に伴い、協会の活動も変化することは当然ですが、どのような変化があっても、若者の主体性を真ん中に置く活動であることが協会の存在意義だと考えています。」

3食、食べてる? 若者と食の現状を伝える冊子を発行しました

自分で食事を調達することができる年齢であると、「食に課題がある存在」として認識されにくい若者たち。しかし、「夏休み期間中の食事の実態調査」を実施したところ、若者の1/3が朝食を摂っておらず、また、約半数が1日3食のうち、2食以上を「ひとりで食べている」と回答していく課題がありそうだと分かりました。

そこで、新たな視点や運営のヒントを得たり、食の取り組みに「若者世代」を巻き込むことへの理解や共感に繋げること狙い、この冊子を発行しました。



広報誌「ユースサービス」が、このたび30号を迎えました！読者の皆様、これまで取材や寄稿等にご協力いただいた皆様に、感謝いたします。さらに、2018年3月29日に、京都市ユースサービス協会（以下、協会）が30歳を迎えました！改めて関係者のみなさまに御礼申し上げます。ということで！今回の特集は、“協会と若者にまつわる30のコト”をコンセプトに据えて、数字遊びをしてみました。ご笑覧ください。

初めの一歩!? ユースサービスの始まり

京都市では1973年に青少年育成について、「非行対策」から「ユースサービス」へ発想を転換するよう提言が出されました。これが、京都市青少年活動センター（以下、センター）の設立に繋がっています。現在、他自治体でも注目され、ひろがっています。



施設利用、無料なのは22歳まで

センターは、市内在住・在勤・在学の13歳～22歳が8割を占めるグループや個人の場合、無料で使ってもらえます！ミーティングに使える会議室やダンス練習に使えるスタジオ、調理室やスポーツルームもあります。ひとりでも友達とでも、たくさん使ってください！**23歳からは有料**になりますが、とってもリーズナブルなので続けて使ってね。

第19期ユースワーカー養成講習会

ユースワークの概論、青少年に関する上の自己理解など、若者の成長を支えるユースワーカーとしての基礎を2日間で学ぶ養成講習会は、2018年3月に第19期を迎えました！全国の若者支援者が集まり、ともにスキルアップしています。年に2回の京都開催の他、名古屋や横浜、札幌をはじめとする出張講座も行っています。

過去参加者の声

普段の自分自身を見つめ直すきっかけにもなり、勉強になった。違う所属の人と交流できたことも新しい発見や刺激になった。



改めて、固定概念で物事を見ているなど痛感しました。職場で色々と活かしていきたいと思います。

選択肢と責任が増える18歳

18歳になれば選挙権が得られます。普通免許を取得できるようになります。はたまた、夜のゲームセンターやパチンコ店で遊ぶこともできます。過激な表現のあるR18指定の作品に触れることもできます。一言でいえば「遊び放題」。同時に「責任」を持った行動も求められますのでご注意を。

平成21年 『広報誌ユースサービス』創刊！

「若者と支援者をつなぐ機関誌」として平成21年(2009年)に創刊。記念すべき1号の巻頭インタビュー「不安を抱える現代の若者たち～立命館大学 野田正人教授に聞く～」「現代の若者の自立へ向けて社会の変化とユースサービスを考える」では、「若者の貧困」についても言及されています。読み返すことで新たな発見があることも魅力ですので、ぜひ一度読み返してみてください。(旧号は協会ホームページから閲覧できます)



遊びの選択肢がさらに増える20歳

「お酒はハタチになってから」標語やCMで見かけるように、20歳になるとお酒をはじめ、タバコや競馬や競輪、競艇などができるようになります。飲み過ぎ、吸い過ぎなど、「〇〇過ぎ」には大きなリスクが伴います。20歳になれば、出来ることが増える半面、社会的な「責任」を伴うということもあります。



17拠点で実施！中学生学習支援事業

「高校に進学できるって当たり前？」思春期や反抗期等、複雑な時期にいる中学生が家庭の様々な困難のために“放置”されている現状をみたケースワーカーの自主的な活動として、2006年に学習支援事業が始まりました。2010年より京都市と京都市ユースサービス協会が事業化し、様々な事情で学習環境の整いにくい状態にある中学生らを対象に高校進学のお手伝いを市内全区17拠点で行っています。詳細はVol.27をご覧ください！

平成16年と平成30年 若者のなにが変わった？

若者をめぐる世間の「アレコレ」は14年前と何が変わったのでしょうか。

平成16年(2004年)は任天堂DSとプレイステーションポータブルが発売となり、若者の間で大人気に。流行語大賞では小説家・綿矢りさ氏(京都市左京区出身)の著作「蹴りたい背中」がランクイン。大学在学中の19歳で芥川賞を受賞し話題になりました。

平成16年(2004年)の携帯電話普及率は68.7%ですが、現在はほとんどがスマートフォンになり、友人ととの交流や娯楽、恋愛などスマートフォンを中心とした生活に大きく様変わりをしたように思います。



恐るべき14歳たち

スポーツ界や将棋界を中心に「恐るべき14歳たち」が活躍しています。21世紀生まれで初となるプロ棋士入りを果たしたのは藤井聰太棋士。小学生で将棋解答選手権のチャンピオン戦で優勝、14歳でのプロ入りは62年ぶりだそうです。また、卓球の張本智和選手はITTFワールドツアー・チェコオープン(男子シングルス)で優勝。2018年も全日本卓球選手権大会優勝と輝かしい成績を残していますね。

センターでも卓球や将棋での利用は多い中、未来の「恐るべき14歳」もいるかもしれないですね……！?

尾崎豊の「15の夜」

若者にストレートに届く歌を残し走り抜けた尾崎豊の代表作。



青少年は13歳から

センターは13歳から施設を利用することができます。実際に**13歳から利用してくれている若者たちへ**インタビューを試みました！

④センターに来たきっかけは？

【中京／卓球をしに来た中学生3人】

Ⓐ勉強するために初来館。その時に「卓球セット買つたで」とユースワーカーに話しかけられ、卓球をやってみた。それからずっと今では卓球しにリピート利用するようになっています！

⑤あなたにとってセンターとはどんなところ？

【南／事業参加の中学生】

Ⓐテニスとか卓球とかで自由にできる遊び場！

⑥一言ちょうどいい！

【山科／中学生3人】

Ⓐどこ行く？困ったらやませい！



平成12年度

京都市ユースサービス協会の事務局が中京区に移設

昭和63年(1988年)に京都駅前に開所した「京都青少年活動センター」は平成12年度(2000年)をもって閉所し、現在の中京青少年活動センター内に協会事務局が移設されました。

ユースサービスと3.11

甚大な被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災を受けて、協会ではこの年に「被災地・被災者への支援に向けた取り組み」「震災の影響で京都に移ってきた若者に向けた取り組み」「京都に住む若者と震災支援活動をつなぐ取り組み」の3つの柱を立て活動を開始しました。

翌年2012年には震災支援をする京都の若者への支援を行いました。震災に関する若者の思いを動画にした「きょうと若者アーカイブ2011～震災、その後～」(<http://ys-kyoto.org/blog/archive/>)をぜひご覧ください。



30年の節目の年、感謝の気持ち これからのビジョン、未来を考え 伝える機会として1年間を通じて 記念事業を実施していきます。

30周年記念式典

京都市ユースサービス協会は、「ユースサービス」の理念を全国に先駆けて掲げ、7カ所の青少年活動センターでの事業をはじめ、青少年を支援する様々な取り組みを進めています。

協会の設立30周年を機に、日頃の感謝の意を表すと共に、協会及び青少年支援の関係者の皆さんと今後の活動機運を一層高めるため、2018年夏(予定)記念式典を開催します。

若者文化発信事業

「若者の「新しい価値観」を発信していく」ことを目的に、洛北ロータリークラブ45周年記念事業と共に開催します。

事業名 「ユスカル」ユースカルチャー(仮称)
開催日 秋
場 所 ロームシアター京都(ノースホール・スクエア)
主 催 京都市・(公財)京都市ユースサービス協会
共 催 京都洛北ロータリークラブ

ユースサービス・ユースワークを 伝える映像の制作

協会、センター、子ども・若者支援室、若者サポートステーション、ユースワーカーが何をしているのか、わかりやすく伝える動画を作成します。

記念誌発行「これからの若者育成・支援 ～ユースサービス協会30年の歩み～」(仮称)

30年間の社会情勢の移り変わりと協会の取り組みの変遷、歩みと、協会のこれからのビジョンを発信します。

青少年との共催・協力事業

昭和63年3月29日に協会設立

京都市において昭和30年代前半、仲間作り、キャンプ、登山などの野外活動、その他多彩な活動を行うグループが誕生していました。それら若者の息吹に応えて、昭和43年(1968年)11月に第1回グループ・リーダー・セミナーを開催。昭和45年(1970年)にはグループ活動の場として、京都市青少年ルームが設置されました。昭和49年(1974年)には前に計画策定された「ユース・サービス・ビューロー計画」が発表され「京都市ユース・サービス委員会」が発足しました。その後、キャンプや青少年グループのスポーツ交流大会を開催したりと青少年のグループ参加を通して人間的成长を支援するというユースサービスのねらいを推し進めてきました。昭和63年(1988年)3月、京都市における青少年活動の拠点の設置に際し、協会の前身である「京都市ユース・サービス委員会」が取り組んできた「ユースサービス」の理念と事業を発展的に継承するとともに、様々な団体等と連携して青少年への支援活動を展開することを目的に財団法人京都市ユースサービス協会が設立されました。

平成28年度利用者数51万人

京都市内7カ所のセンターの年間利用者数が初めて50万人を超えたのが平成28年度(2016年)。それを記念して各事業所ではクッキーのデコレーションを行い、合作で協会ロゴマークを作りました。平成29年度(2017年)もおそらく50万人を超える……はず。



ユースワーカー資格取得者数27名

2009年からスタートしたユースワーカー養成資格取得コースも10年目を迎えようとしています。2017年3月31日現在、27名が資格を取得しそれぞれのフィールドで活躍されています。

東京23区と京都市の人口比較

東京23区の若者の人口をご存知ですか? およそ165万人と京都市の若者の約5倍以上です。ただし、全体の人口に占める若者の割合は政令指定都市では京都市が一番高いです。まさに学生のまち・若者のまち京都ですね。

平成24年4月1日 公益財団法人に移行

協会は財団法人として設立されました。その後法律の改正があり、一般法人もしくは公益法人への移行が必要となりました。協会では多くの方と協議を重ねながら、公益財団法人に移行しました。

LIVEKIDS 25回の歴史

「LIVEKIDS～アマチュアダンス&ミュージックフェスティバル～」はこれまで25回開催してきました。平成28年(2016年)8月にロームシアター京都にて25回記念大会を行い、いったんの幕引きとなりました。その後は若者文化の発信をテーマに形を変えて、様々な事業を展開しています。

12月26日クリスマスのあとと 昔は言ったけど…

12月25日はみなさんご存知クリスマスです。では12月26日は……? 実はこの日もクリスマス。いわゆる「ボクシングデー」です。格闘技の「ボクシング」ではなく、「クリスマスにもらったプレゼントが入っている箱(box)を開ける日」ということのようです。その場で中身を確認するのもいいですが、1日待ってみるのもいかが?